

# ルリシジミ

*Celastrina argiolus*

シジミチョウ科



ルリシジミ

撮影-吉原利之

## 名前の由来

瑠璃（るり）色のシジミチョウの意。シジミはシジミ貝に大きさや形、メスでは色も似ていることからつけられた名。漢字名：瑠璃蛭

## 特定種

該当なし。

## 形態的特徴

翅の表が抜けるような青の美しい中型のシジミチョウ。オスの翅表は青藍色、前翅外縁の黒帯は狭く、とくに後翅では細い線状の外縁線となる。春型は暗色を帯びて光沢が強く、夏型では明るくやや白色を帯びる。メスの翅表は帯白青色、外縁の黒帯はオスに比べて著しく広いが、その発達の度合いは春型では弱く、夏型では強い。夏型では後翅も広く黒色を帯びる。裏面の地色は春型で蒼灰色、夏型では灰白色、黒斑の形は個体変異が著しい。

## 類似種と見分け方

スギタニルリシジミ（あまり見かけられない）。スギタニルリシジミでは、後翅裏面の第1c室（スジ＝翅脈で囲まれた区画＝室のうち下から3つ目）体寄りにある二つの黒斑が結合してV字状になる。ルリシジミでは、2つ分かれている（右写真では不鮮明）。

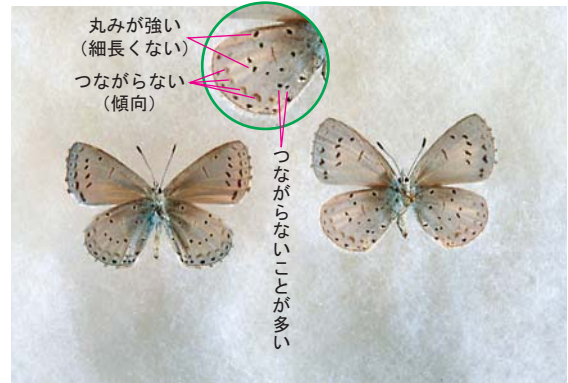


スギタニルリシジミ。表（左がオス、右がメス）



オスの表は  
白い部分を持たない

ルリシジミ。表（左がオス、右がメス）



ルリシジミ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期		■	■	■	■							
幼虫期		■	■	■	■	■						
蛹期	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
成虫期		■	■	■	■	■						

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

平地から山地の林間の道端、草地、疎林。暗い林内には少ない。

**分布：**国外分布は、ユーラシア大陸と北米大陸。国内分布は、北海道、本州、四国、九州およびほとんどの周辺

離島。奄美諸島でも記録されているが、土着は疑問視されている。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山岳部にかけて広く分布し、数も多い。

## 繁殖生態・寿命

年2回発生。成虫は4月下旬～7月中旬、第2化は6月中旬～9月中旬に見られる。越冬態は蛹態。

メスはまだ開花していない蕾、若芽などに1個づつ産卵するが、特定の蕾に繰り返し産卵され多くの卵がついていることがある。

幼虫の体色は、食べる花の色に応じて変化する。おそら

く花の色素をそのまま取り込んでいるものと思われる。また幼虫にはアリがつきまっとうっている。蛹化は根元の石の下、枯葉の裏などから見つかる。寿命：不明。

## 他生物との関わり

\*クサフジなどのマメ科、オオイタドリ、ホザキナナカマド、キハダ、カラコギカエデなどの植物を食草・食樹とする。

\*成虫の吸蜜植物にはセイヨウタンポポ、ヒメジョオン、クサフジ、ムラサキツメクサをはじめ多くの植物が確認されている。

\*幼虫の出す蜜を舐めにクロオオアリ、トビイロケアリ、クロクサアリ、エゾアカヤマアリなどが集まる。

\*天敵として寄生蝇（サンセイハリバエ）と幼虫に寄生するハチの一種が記録されている。

## 幼虫の食性（食草・食樹）

クサフジなどのマメ科、オオイタドリ、ホザキナナカマド、キハダ、カラコギカエデなど。



クサフジ。ルリシジミ幼虫の食草の一つ



キハダ。ルリシジミ幼虫の食樹の一つ

## 興味深い話

■ルリシジミをはじめシジミチョウ類の幼虫にはよくアリが付きまっとうっているのが見られる。ルリシジミでは3齢幼虫よりアリが訪れ、特に終齢では3～4頭のアリがたえずつきまっとうっていることが多い。アリは触角の先で幼虫のお尻の方にある蜜線付近を触れ、数分に1回程度分泌される液体を摂食する。液体の分泌は蛹化場所を求めて徘徊行動に移る2～3日前が最も盛んでアリは幼虫に近づく他の生物に敵対行動をとる。こうしたルリシジミがアリに蜜を与える代わりに、外敵から守ってもらう

というような、生物互いに利益を得て生きる関係を「相利共生」という。

■幼虫の（特に終齢幼虫）の体色は食べる花の色により変化し、たとえばクズでは紫～紅色、ニセアカシアでは白になる。

■十勝地方のアイヌ語では、ルリシジミを「モユクマレウレウ」、シジミチョウ類を「スプンマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

## 配慮事項

特になし。

### 参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990  
「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981  
「原色昆虫大図鑑 I（蝶蛾編）」北隆館 1978  
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993  
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986  
「原色日本蝶類生態図鑑（I）」福田晴夫・浜栄一他 保育社

1982  
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994  
「エコロン自然シリーズ 蝶・蛾」白水隆・黒子浩 保育社 1996  
「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987  
「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類